

## 1. 研究目的

進路選択の時、「自分は一体何がしたいのか」「何が好きなのか」と、初めて向き合う人が多い。

私が進路について考え、迷っていた時、今まで自分が書いてきた詩を読み返すことで、自分が本当にやりたいことに気付く事が出来た。

この経験をきっかけに、詩には自己を見つめ、書く事で自己について考え、そして読み返すことで自己について客観視することが出来るのではないかと考えた。そこで、進路に悩む高校生・大学生を対象に、自己理解を深めるための「詩」制作キットを制作し、自分について改めて見つめ直してもらうための研究を行うことにした。

## 2. 調査と分析

まず高校生の進路選択の不安について調査した結果、(社)全国高等学校 PTA 連合会・(株)リクルート「高校生と保護者の進路に関する意識調査」より、約4割の高校生が「自分に合っているものが分からない」、そして約3割の高校生が「やりたいことが見つからない、分からない」と回答している。

これらを踏まえて、自己理解のために普段詩を書かない高校生・大学生にも、簡単な詩を書けるような手順の載った詩制作キットを制作することとした。

## 3. コンセプトの立案

コンセプト:「わたしの詩」

この「わたしの詩」というのはその言葉の通り、自分自身を指している。ここでは「わたし」自身の好きなものについてまず書き出してもらい、そこから何故それが好きなのか、どんなところが好きなのかを考えてもらうこととした。そしてワーク形式で冊子に書き込んでもらい、その書き込んだ言葉を使って詩を制作する形とする。

## 4. デザイン展開

### (1) 試作品の制作と検証

今回このキットを制作するにあたって、自由に詩を書いてもらいたいと考え、文法や詩人の詩を載せ、また詩を書くにあたっての心構えを何点か書いただけの試作品を作った。

実際にこれでどの程度詩が書けるのか、本校デザイン学科の3～5年生30人を対象として、実際にキットを使ってもらい、アンケートに答えてもらった。

しかし、アンケートは半数以上が帰ってこず、帰っ

てきたアンケートにも「漠然としすぎてやりにくい」「いきなり詩を書けと言われても難しい」などといった意見が寄せられた。

### (2) 検証結果を踏まえてのデザイン展開

この検証から、全てを自由に書かせるのは、想像以上に難しいことがわかったので、ある程度ステップを組み、その順序に則って言葉を考え、書き込んでいってもらい、ワーク形式に内容を変更した。

### (3) 詩を自主的に書きたい人のための配慮

試作品への意見の一つとして「もっと詩を用いて自分について知りたい」という声が寄せられたため、おまけとして詩人の詩や、詩を書くためのツール等の紹介ページを作り、このキットを経てこれから自主的に詩を書きたい人へ配慮することとした。

### (4) 外観・中身のデザインについての配慮

冊子のデザインは、書く詩の中身が左右されないように、冊子のデザインは徹底してシンプルなものとした。また、思いついた時にすぐ書き入れることが出来るよう、消しゴム付き鉛筆をつけ、袋にまとめて1セットとした。

## 5. 完成図



## 6. 結論

本校デザイン学科3～5年生12人に完成したキットを使ってもらったところ、このキットを使って詩を書けた人が8人、書けなくても、やってみて自分について知れたと感じた人が10人と、半数以上の人が試作品の時と違い、詩を書く事ができ、尚かつ自己理解に繋がったという回答を得た。よって、研究目的である、「詩を通して自己理解をする」ことのきっかけとなったと結論づける。

## 文献

- [1] (社)全国高等学校 PTA 連合会・(株)リクルート  
「高校生と保護者の進路に関する意識調査(2007)」  
<http://souken.shingakunet.com/research/2010/07/post-7a54.html>